

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第7号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第7号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.3	23.2	1.9	27.6	28.1	0.5	16.1	18.4	2.3	25.4	0.0	0	29.5	28.4	96
	2	22.0	25.2	3.2	27.9	31.9	4.0	17.1	19.7	2.6	30.2	0.0	0	26.6	44.5	167
	3	22.6	25.5	2.9	27.9	27.6	-0.3	18.1	23.7	5.6	40.9	117.0	286	24.0	7.4	31
	4	23.2			28.0			19.3			57.8			21.2		
	5	23.8			28.2			20.4			76.2			17.6		
	6	24.4			28.5			21.3			86.7			16.1		

- 1) 6月3半月は、平均気温は平年に比べ2～3℃ほど高く（夜温が高い）推移した。
- 2) 6月11日～13日にかけてまとまった降雨により日照不足となった。
- 3) 令和2年梅雨入り（九州北部地域）は、6月11日ごろとなり、平年に比べ6日程度遅くなった。

2. 水稲情報田の生育状況（調査日：6月17日）

項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概要
コシヒカリ	本年値	72.3	580	13.3	36.9	・草丈は平年に比べやや高く、茎数は平年並み。 ・主稈出葉数は平年より0.7葉多い。葉色は平年よりやや濃い。 ・現在止葉出葉中である。 ・幼穂長 40～50mm 葉耳間長 - 8～10cm程度
	平年値	69.3	595	12.6	36.3	
	平年比（差）	104	97	+0.7	+0.6	

※ 平年値は、H21～31年度の平均値

※ 耕種概要は稲作情報NO1参照

（管内の生育状況）

- 現在、生育ステージは、幼穂形成期～穂孕み期を迎えている。
- 葉色が濃く旺盛な生育圃場において、葉いもち病斑（停止型）を確認した。
- 強い中干し後、急に湛水状態に移行した圃場において、根痛みによる下葉の黄化と6月上旬の風による葉先枯れを確認している。（かなり土壌表面が白乾した圃場にて確認している）**※適切な水管理の徹底**
- 水田横の畦畔（エノコログサが密集している）における斑点米カメムシのすくいとり調査したところ、発生量が多い。**※畦畔の草刈りによる耕種的防除の実施**

3. 今後の管理

幼穂形成期～穂揃期まで（6月6日～7月上旬頃）は、稲が最も用水を必要とする時期になります。**土壌表面が白乾するなど用水を切らさないように、また支持力も高めるため、こまめな水管理に努めましょう。**

(1) 水管理

「コシヒカリ」は、幼穂形成期～穂孕期となっています。

情報田は葉耳間長からみた出穂日は7月2日頃と予想されます。

幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期ですが、湛水状態を長く行くと田面がやわらかくなることと根を傷めるので引き続き間断灌水を行いましょう。

ただし、穂孕み期から出穂期は浅水管理をつとめましょう。

また、台風等が接近する恐れがありその場合は出来るだけ深水管理を行いましょう。

(2) その他

○斑点米カメムシによる被害を軽減するために畦畔雑草の除草を6月20日頃までに終わらせましょう。

出穂10日前までの畦畔雑草の刈り取りは、斑点米カメムシの耕種的防除です。イネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努めてください。畦畔を100mあたり歩いて3頭いたら、要注意です。

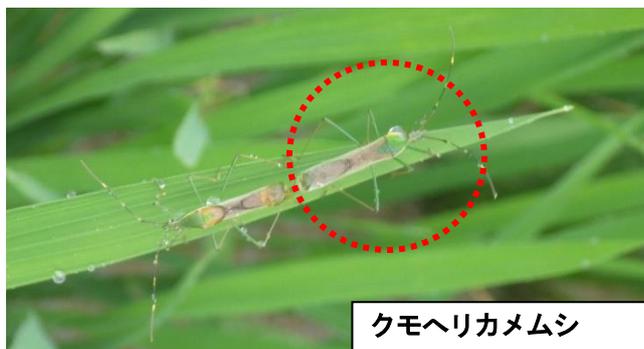
エノコログサやヒエが多発している畦畔はカメムシの住処となっている



管内における斑点米カメムシの20回すくいとり調査(6月17日)

地区	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		ミナミアオカメムシ		アスジカスミカメ		シラホシカメムシ	
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
須古(畦畔)	5	20	0	1	3	0	44	19	2	3
福富(畦畔)	0	0	1	2	5	0	0	5	0	0
干拓(畦畔)	9	3	7	0	3	0	7	159	0	0

※圃場横の畦畔雑草(エノコログサ等)に生息している斑点米カメムシを調査しました。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

○コシヒカリの圃場に置き苗が見られます。

置き苗は病害虫の発生源になるので、必ず撤去して下さい。

○最近の曇天で補植苗にいもち病（褐点型・停止型）を確認したので、今後曇天が続く場合は「いもち病」に要注意である。



葉いもち病の病斑



置き苗に葉いもち病斑

「七夕コシヒカリ」は特別栽培農産物の認証を受けるためにも、農薬成分回数9成分を超えないように注意しましょう！

☆☆七夕コシヒカリ栽培曆に載っていない薬剤を使用する場合は、必ず指導機関に相談して行うこと！！☆☆

4. 今後の管理（普通期水稻）

（1）「夢しずく」

○「夢しずく」は、早いところで6月6日（平坦上部）から始まり、6月12日～15日に移植盛期をむかえています。

今後は、移植時期に応じた水管理を徹底しましょう。除草剤は、薬剤の使用基準を守り、処理後7日経過したら浅水管理に移行しましょう。

本年は育苗期間である5月の気温は高く被覆資材の除去が遅れたところでは苗質が軟弱徒長ぎみとなっています。今後、連続降雨により深水状態が続くと流葉を呈しやすくなります。

また、一部の圃場においてガスの発生を確認しています。

「ガスの発生が著しい場合」は、除草剤処理から7日経過したら「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行いましょう。



手を田んぼに入れると、気泡（ガス）が激しく発生する⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

○本年は暖冬の影響を受け、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が多いことが懸念されます。発生が多い圃場では、特に深水にならない様に注意しましょう。

(2) 「さがびより」

○麦わらすき込みなど有機物施用を行った圃場では、ガスのわきが予想されるので、初期生育を促進するため、移植前日までには窒素成分で0.5g～1g/箱の弁当肥を施用しましょう。移植後の活着もよくなります。

○「さがびより」に関しては茎数が増えやすい品種であることから、下記の適正な栽植密度や植え付け本数を守るとともに植え付け深度（3cm程度）の適正化に留意しましょう。

- ①栽植密度 50～60株/坪（15～18株/m²）
- ②植え付け本数 3～4本/株

(3) 「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」

○「ヒノヒカリ」は6月20日以降、「ヒヨクモチ」は6月25日以降に移植しましょう。

(4) 病害虫の発生状況

○普通期水稻では、苗いもちの発生を確認しています。

○海外飛来成虫は、梅雨前線による飛来を現地でも確認しています。

ただし、現時点での防除は必要ありません。

海外飛来性病害虫 誘殺状況														
	セジロウンカ					トビロウンカ					コブノメイガ			
	長崎県		佐賀県			長崎県		佐賀県			長崎県		佐賀県	
	諫早		佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早		佐賀市	佐賀市	嬉野	諫早	佐賀市	白石	武雄
	ライト	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	ライト	ライト	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ
6/1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/3	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	-		
6/4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0
6/6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-		
6/7	0	0			0	0	0			0	0	-		
6/8	0	0			0	0	0			0	2	-		0
6/9	0	0			0	0	0			0	1			0
6/10	0	0				0	0				2			
6/11	20	0				1	0				52			
6/12	30	0				2	0				13			
6/13	1	0				0	0				19			
6/14	12	1				1	0				13			
6/15		0					0				41			

佐賀県農業技術防除センター及び長崎県農業技術防除センターHPより

5. 台風・大雨対策

○台風対策は、水稻の生育ステージによって異なりますが、本田移植後（活着期以降）は、強風による水稻の茎葉の水分収奪や損傷を防止するため、必ず深水管理を行いましょう。併せて、台風通過後は、新しい水と入れ替え、こまめな間断灌水や浅水管理を行って根の機能回復に努めるようにしてください。

○近年、移植後の集中豪雨による圃場の冠水がありますが、クリーク水が圃場へ逆流したり深水状態が続くと、スクミリンゴカイの被害が拡大する恐れがあるため、用排水の管理をきめ細かく実施するとともに、食害が多い場合はメタアルデヒド剤等で防除しましょう。